



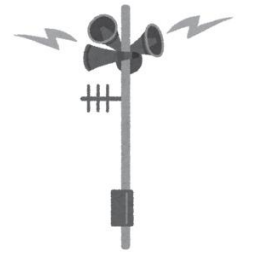
## 日本共産党

質問者

いぎ まもる  
井木 守 議員

所属議員

ひのつ みちこ  
樋之津 倫子 議員



### 7月豪雨災害の教訓を生かした災害対策を問う

議員 7月豪雨災害では多くの人命が失われたが、真備町では約8割が避難に援助の必要な方だったとのこと。笠岡市の対応はどうか。

市長 要支援者の名簿を民生委員や自主防災などに配付し、避難支援が行えるよう危機管理部と健康福祉部が連携して取り組んでいる。

議員 高齢者避難開始情報が発令された時点での対応は。

危機管理部長 発令の時点で、各自主防災に特別のお願いはしていない。日常の近所づきあいを基本に、各地域で体制を整え、支援や見守りをしていただくことをお願いしているのが現状だ。

議員 防災無線が聞こえないとい

う声が多い。サイレン音に変える、繰り返し放送回数を増やすなど具体的な対策が必要ではないか。

危機管理部長 平時のご案内とチャイム音を変えることは大変有効だと思っております。可能ならばすぐに対応したい。

### 「会計年度任用職員」の導入を問う

議員 制度導入の際、対象となる職員をふるいにかけて、雇止めしたりということはないか。また、定年退職した職員の補充を会計年度任用職員とするのか。

総務部長 ふるいにかけてというように考えはない。定年退職した職員の後には正規職員を採用するのが基本であり、会計年度任用職員をあてるという考えはない。新しい定員適正化計画では、職員を増やす方向で考えたい。



おおもとますゆき  
大本益之 議員

### 内水害の防止に恒久対策を望む

議員 想定している降水量に対し、排水施設の能力に問題はないか。

市長 農業用の排水施設は、寺間、甲弩、走出、吉浜、西大島新田、白石島地区の6か所あり、施設により異なるが連続降雨の基準雨量を160ミリから260ミリとして計画し整備されている。7月の豪雨では連続降雨量が360ミリを超え、排水能力を超えた雨量だったため、北川地区や吉浜地区では排水ポンプをフル稼働しても排水が追いつかず、水位が上昇する結果となった。また、走出、甲弩の排水機場は小田川の越水や尾坂川の破堤で冠水した。

議員 ハード面での今後の対策はどうか。

市長 県管理河川の護岸改修やしゅんせつ、樹木の伐採等を最優先に考えており、県に要望している。入江排水機場は、平成31年度に更新完成予定で県が事業を行っている。寺間排水機場は、平成31年度から36年度に応急対策を国営事業で行う予定。北川第1排水機場は、本年度事業計画概要を策定し、平成33年度から37年度までに改修予定となっている。近年の想定を上回る集中豪雨による浸水被害を防止するため、能力向上を図ることができるよう、国・県と整備事業計画協議を進めたい。

議員 浸水した吉浜地区の対策は。

建設部長 排水ポンプのあり方など、検討していく予定としている。

